

4) ICデータによる路線別の特徴

平成 29 年 4～6月の平日 61 日間における ICデータによる市町村間運行バスを含む市内の全 10 路線を対象に乗降状況を整理しました。

ICデータによる各路線の特徴は、次のとおりです。

▼乗降調査に基づく路線別の特徴

区分	路線名	特徴
市町村間幹線	①-1 領石線・南国オフィスパーク線・田井線	<ul style="list-style-type: none"> ●南国市関連利用 1 日平均 120 人、片道 1 便平均 10.0 人（ICデータ数値のみ※） ・県庁前～医大間での利用が、全体の 67%程度を占めている。薊野、一宮周辺の住民の高知市中心地への通勤、通学、買い物等による利用が多い。 ・領石出張所での乗降が多く、他バス路線、デマンドタクシーからの乗継利用もある。 ・旧国道沿いの住民にとって重要な移動手段となっているが、大部分で宇佐線と重複している。
	①-2 領石～宇佐線	<ul style="list-style-type: none"> ●南国市関連利用 1 日平均 551 人、片道 1 便平均 5.7 人（ICデータ数値のみ※） ・高知市内完結利用が全体の 56%程度を占めており、薊野、一宮、朝倉、旧春野町周辺住民の高知市中心地への通勤、通学、買い物等による利用が多い。 ・領石出張所での乗車数も多く、他路線バス、デマンドタクシーからの乗継利用もある。 ・旧国道沿いの住民にとって重要な移動手段となっているが、大部分で田井線と重複している。
	② 神母木～高知工科大学～龍河洞線・潮見台線	<ul style="list-style-type: none"> ●南国市関連利用 1 日平均 19.5 人、片道 1 便平均 1.2 人（ICデータ数値のみ※） ・高知市内完結の利用が約 65%を占めている。工科大への通学での利用が多い。 ・市内外からの JA 高知病院への通院利用、市外からの後免西町での乗継利用を考え、後免町乗り入れ等によるハブ&スポークの最も有力な路線
	③-1 前浜・パークタウン線（イオン行）	<ul style="list-style-type: none"> ●南国市関連利用 1 日平均 59.7 人、片道 1 便平均 5.0 人（ICデータ数値のみ※） ・緑ヶ丘地区～県庁方面の利用が多く、前浜～稲生地区での乗降は相対的に少ない。 ・前浜～緑ヶ丘地区住民の高知市中心街へ出る貴重な移動手段となっている。
	③-2 //（県庁行）	<ul style="list-style-type: none"> ●南国市関連利用 1 日平均 109 人、片道 1 便平均 6.0 人（ICデータ数値のみ※） ・高知市内完結の利用者よりも、南国市関連の利用が多い路線。 ・前浜～緑ヶ丘地区住民の高知市中心街へ出る貴重な移動手段となっている。
	④ 種崎・望海ヶ丘・高知医療センター・後免線（十市後免線）	<ul style="list-style-type: none"> ●南国市関連利用 1 日平均 14 人、片道 1 便平均 1 人（ICデータ数値のみ※） ・十市、三和地区から大涌、後免への通勤、通学、通院、買い物等の定期的な利用がある。 ・後免町で乗り継いで医療センター関連の利用が一定存在。 ・区間でみると、平日・休日ともに 30%超が空バス。

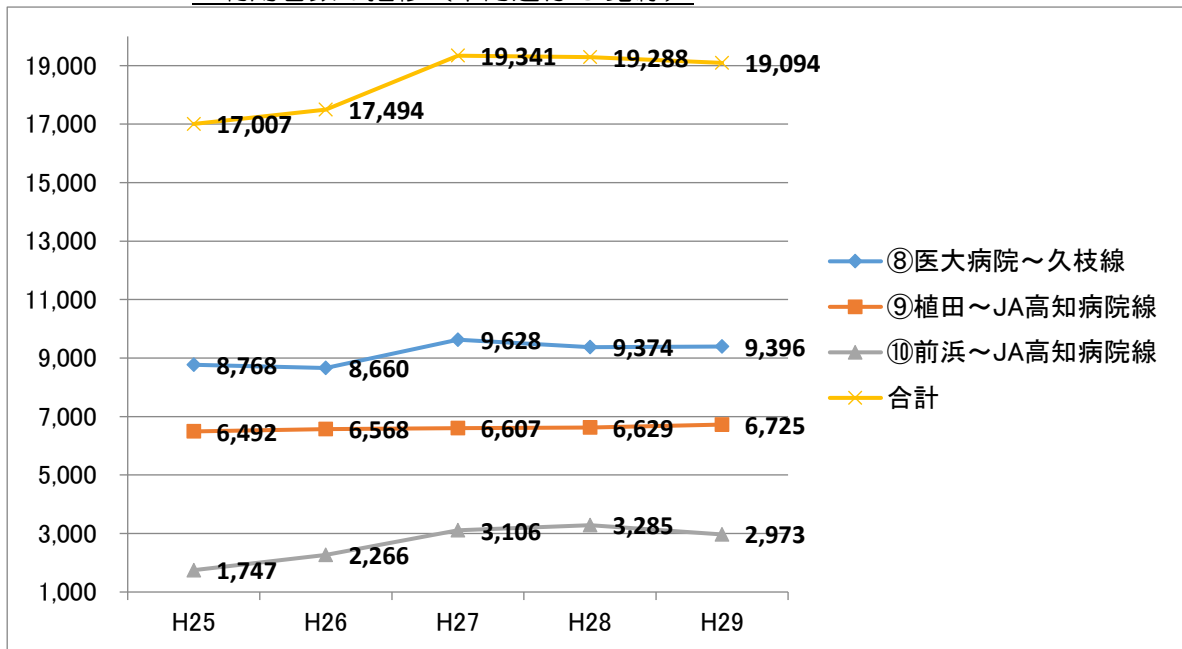
市町村間幹線	⑤医大病院線	<ul style="list-style-type: none"> ●南国市関連利用 1 日平均 24.5 人、片道 1 便平均 2.0 人（ICデータ数値のみ※） <ul style="list-style-type: none"> ・高知市内完結の利用が、約 8 割を占めている。南国市民の定期的な利用は、ほとんどない。 ・南国市関連の利用者のうち、77%が医大関係。 ・医大病院と大津領石通間で医大病院～久枝線と重複している。 ・大津領石通で路面電車への乗継利用。
	⑥安芸線	<ul style="list-style-type: none"> ●南国市関連利用 1 日平均 224 人、片道 1 便平均 9.3 人（ICデータ数値のみ※） <ul style="list-style-type: none"> ・後免町～安芸駅間での利用が全体の 40%程度を占めている。香南、芸西の学生の通学利用が多いものと推測される。 ・後免町をまたいで利用している人は全体の 30%程度。 ・後免町でのハブ&スポーク（後免町止まり）の対象路線とも考えられる。
	⑦鏡岩～医大病院～かもはら線	<ul style="list-style-type: none"> ●南国市関連利用 1 日平均 5.2 人、片道 1 便平均 0.9 人（ICデータ数値のみ※） <ul style="list-style-type: none"> ・高知市内での利用が大半である。 ・蒲原周辺住民の高知市中心地への路線であるが、利用者数が少ない。
市内路線	⑧医大病院～久枝線	<ul style="list-style-type: none"> ●1 日平均 30.8 人、片道 1 便平均 2.2 人（ICデータ数値のみ※） <ul style="list-style-type: none"> ・後免町周辺（後免西町～後免町）をまたいで利用している割合は少ない。 ・久枝、前浜、三和地区から大桶、後免への通勤、通学、通院、買い物等定期的な利用があるが、浜改田通～後免町間は十市後免線と重複。 ・後免町～医大間は、安芸線、軌道と重複部分がある。
	⑨植田～JA 高知病院線	<ul style="list-style-type: none"> ●1 日平均 20.3 人、片道 1 便平均 1.4 人（ICデータ数値のみ※） <ul style="list-style-type: none"> ・久礼田～長岡地区の住民にとって後免へ出る唯一のバス路線。 ・後免町周辺（後免駅～後免町）をまたいで利用している割合は少なく、後免駅～後免町間での乗降が多い。 ・後免町～東工業前は、安芸線、軌道と重複部分がある。
	⑩前浜～JA 高知病院線	<ul style="list-style-type: none"> ●1 日平均 11.0 人、片道 1 便平均 0.9 人（ICデータ数値のみ※） <ul style="list-style-type: none"> ・前浜、日章地区の県道沿いの住民にとって、後免へ出る唯一のバス路線。 ・主に前浜、日章地区の住民が後免町近辺へ買い物、通院、乗継等により利用。 ・後免町、後免駅前での乗降が比較的多く、他のバス路線、軌道、JR への乗継利用も考えられる。路線全体的に利用が少ない。 ・立田前浜通～後免西町は、安芸線、軌道と重複部分がある。

5) 路線別の利用人員と収支率

(1) 利用者数と収支率の推移

市内運行3路線の平成28年度における利用者数は約1万9千人(ICデータのみ)であり、平成27年度から利用者数は維持されています。しかし、平成30補助年度において収支率が20%を超えている路線は「医大病院～久枝線」のみであり、「植田～JA高知病院線」「前浜～JA高知病院線」は20%以下と低くなっています。

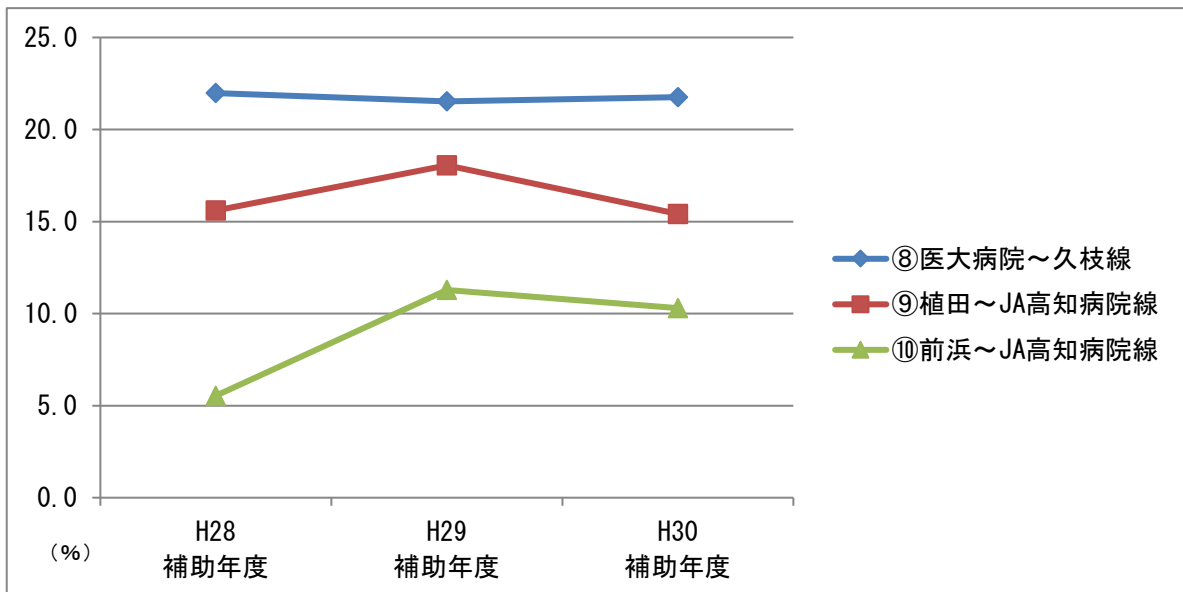
▼利用者数の推移(市内運行3路線)



※ICデータによる。

※各補助事業年度：10月1日～9月30日

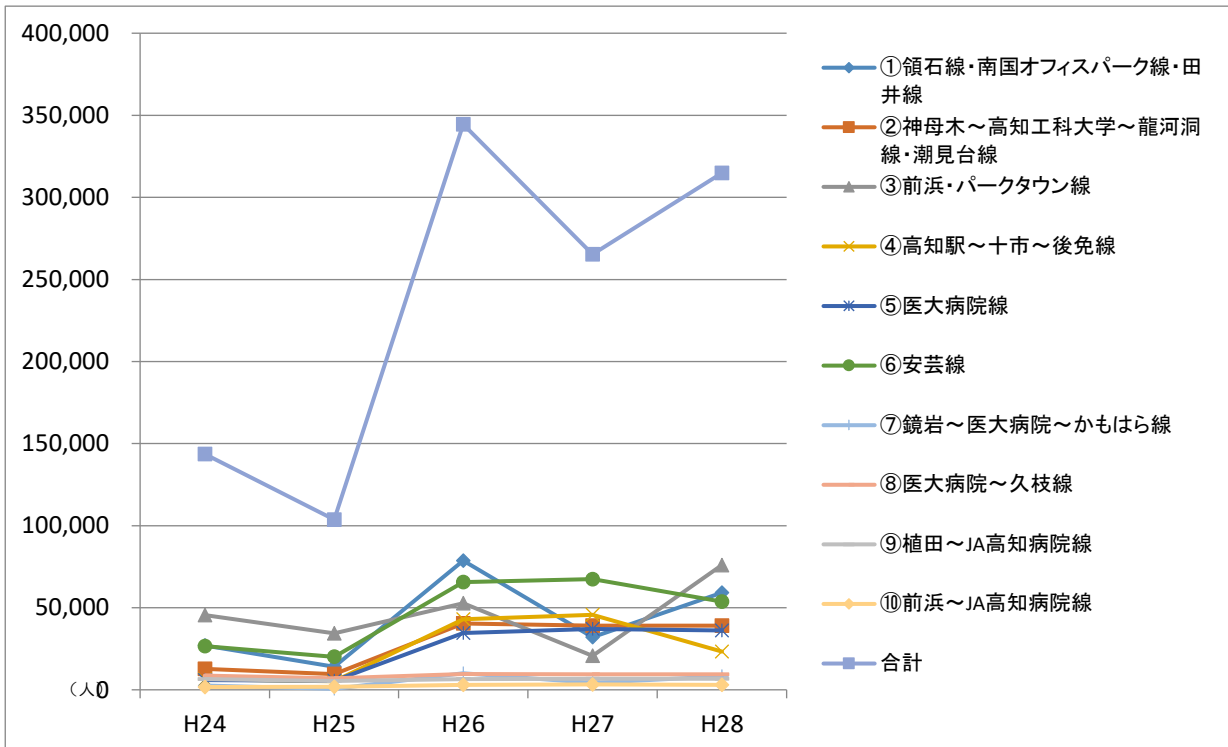
▼路線別の収支率(市内運行3路線)



※各補助事業年度：10月1日～9月30日

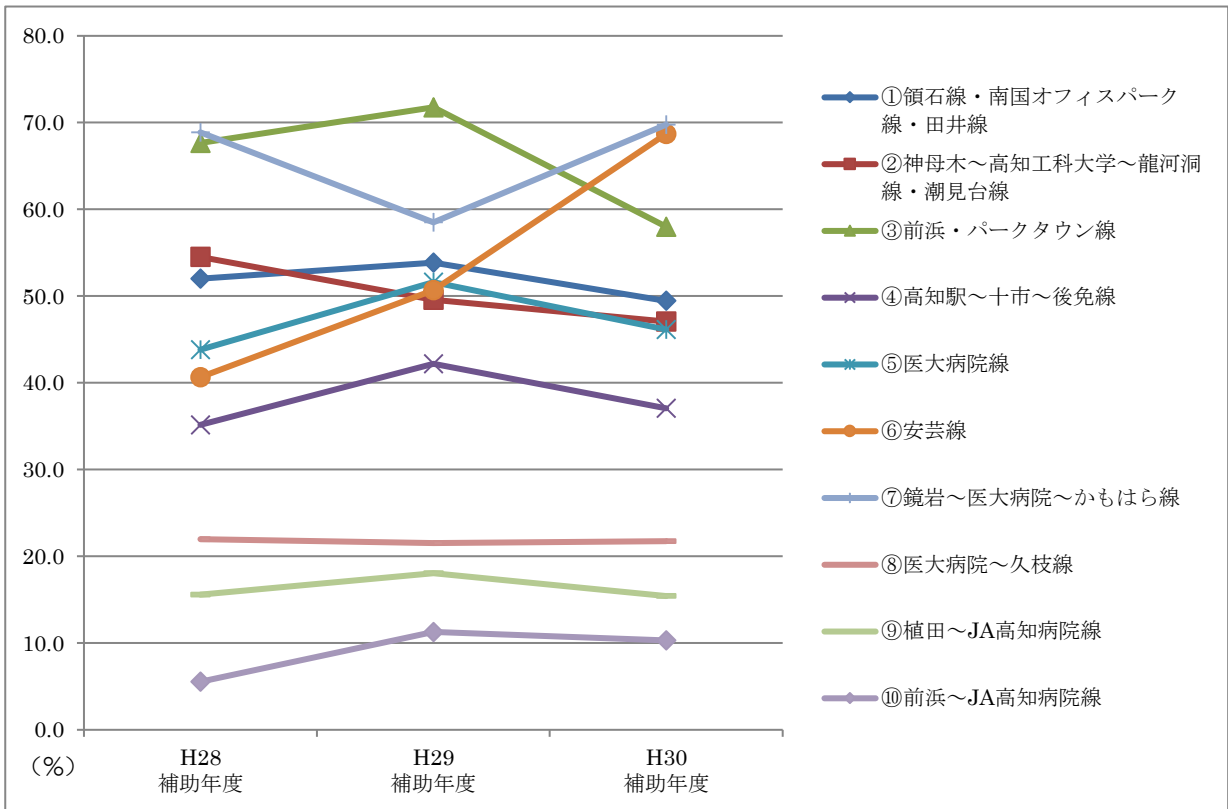
※各事業年度数値：前々補助事業年度の実績を基に、補助事業年度の前年6月の時点で試算した数値。

▼利用者数の推移（市町村間運行 7 路線・市内運行 3 路線）



※平成 26 年 10 月に県内路線バス会社 3 社が経営統合

▼路線別の収支率（市町村間運行 7 路線・市内運行 3 路線）



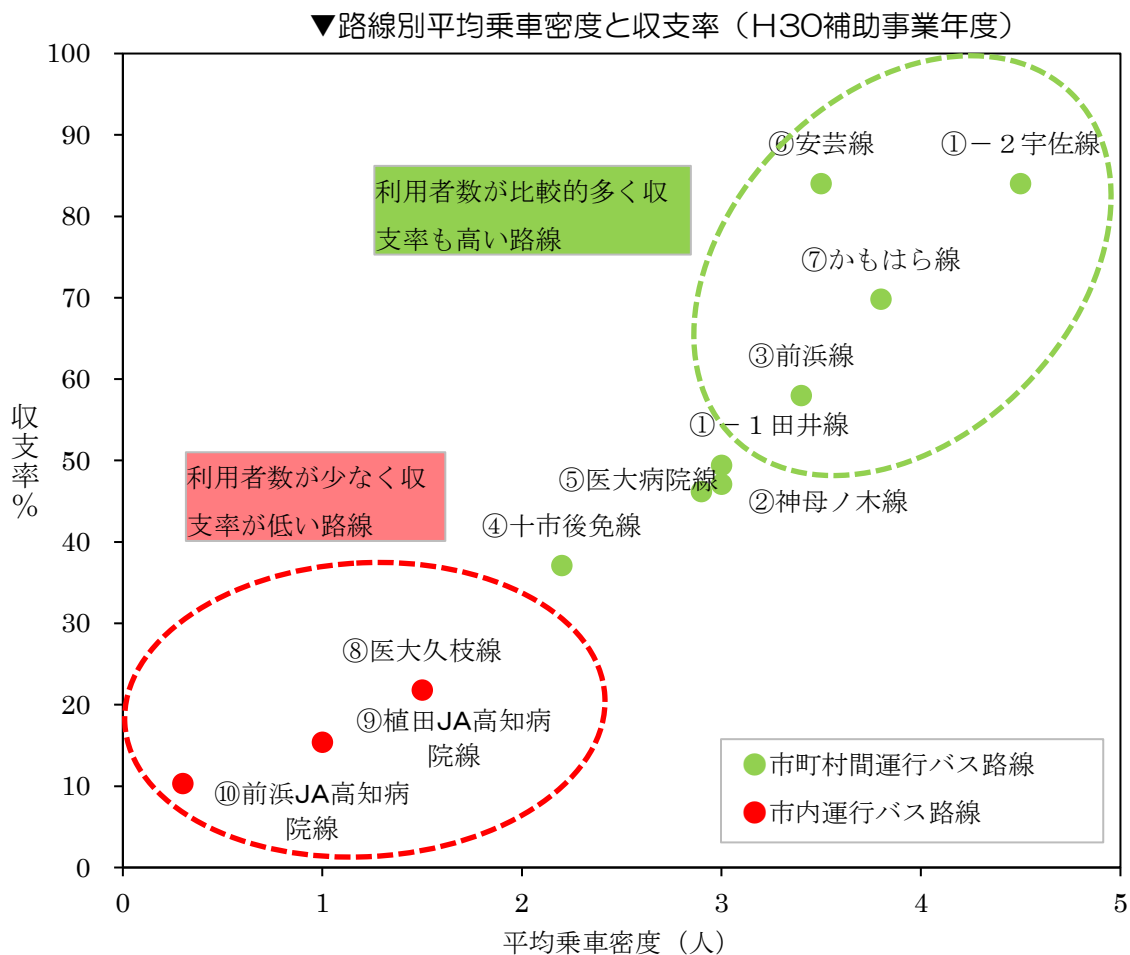
※各補助事業年度：10月1日～9月30日

※各事業年度数値：前々補助事業年度の実績を基に、補助事業年度の前年6月の時点で試算した数値。

(2) 路線別の収支率と平均乗車密度の関係

「前浜～JA高知病院線」は、平均乗車密度・収支率ともに低く、運行形態の変更を含めた見直しが必要と考えられます。

「植田～JA高知病院線」は、収支率は 15%を超えているものの、平均乗車密度が低いため、便数や経路等の見直しが必要と考えられます。



※補助事業年度前年6月の時点で試算した数値

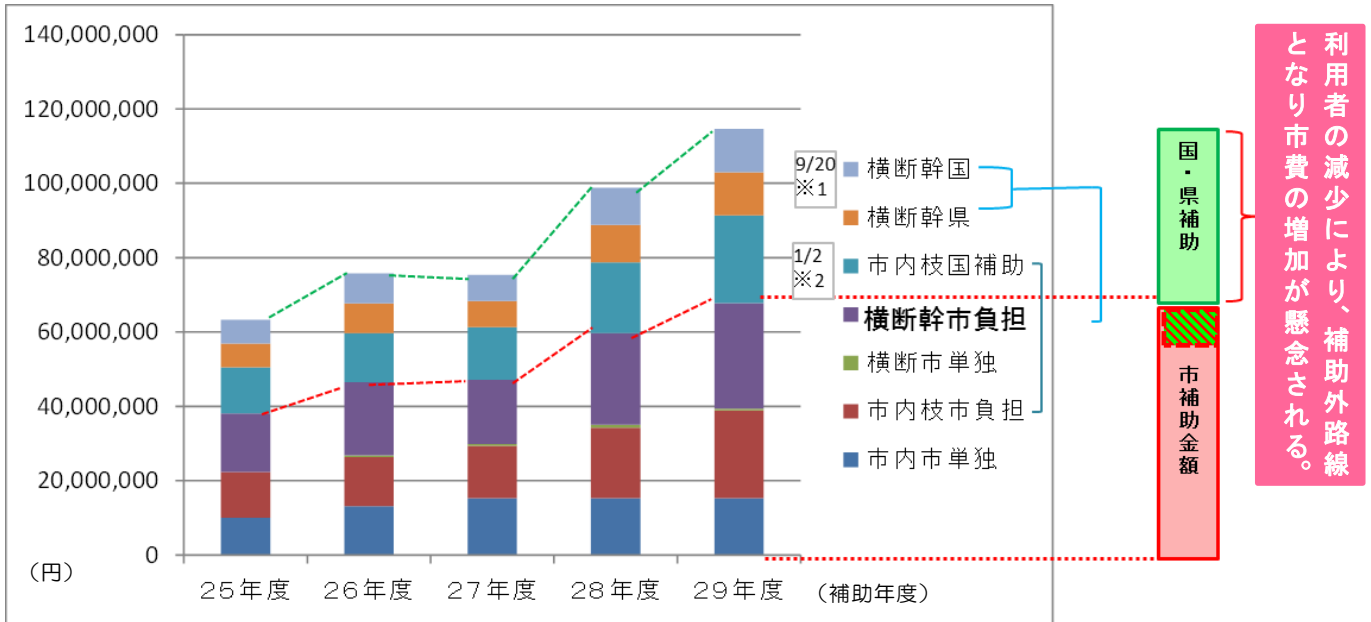
※医大久枝線、前浜JA高知病院線、植田JA高知病院線の平均乗車密度はH28年度資料による。

※前浜JA高知病院線の収支率は、H28年度資料による。

6) 路線バスに対する補助金の推移

市の補助金額及び委託金額は、平成 29 補助年度で約6千8百万円となり、増加傾向が続いています。

今後、利用者の減少が続けば、国の補助対象外路線が増え、市費負担の更なる増加が懸念されます。



- ※1： 経常費用の内、9/20 国・県補助、11/20 県・市補助+運賃収益
ただし、密度カット、競合カットにより、国・県充当率は減少し、市費が増加
- ※2： (経常費用-運賃収入) の1/2 国、1/2 市
ただし、国庫補助は限度額の減少傾向が続き市費が増加。
- ：密度カット、競合カット、国庫補助限度額により市負担費増加分

路線種別	費用負担	路 線
横断幹線	国・県・市	①-1 領石線・南国オフィスパーク線・田井線、①-2 領石～宇佐線、② 神母木～高知工科大学～龍河洞線・潮見台線、③-1 前浜・パークタウン線 (イオン行)、③-2 前浜・パークタウン線 (県庁行)、④ 種崎・望海ヶ丘・高知医療センター・後免線 (十市後免線)、⑤ 医大病院線、⑥ 安芸線
横断市単独	市	⑦ 鏡岩～医大病院～かもはら線
市内枝線	国・市	⑨ 植田～JA 高知病院線、⑩ 前浜～JA 高知病院線
市内市単独	市	⑧ 医大病院～久枝線

7) スクールバスの運行状況

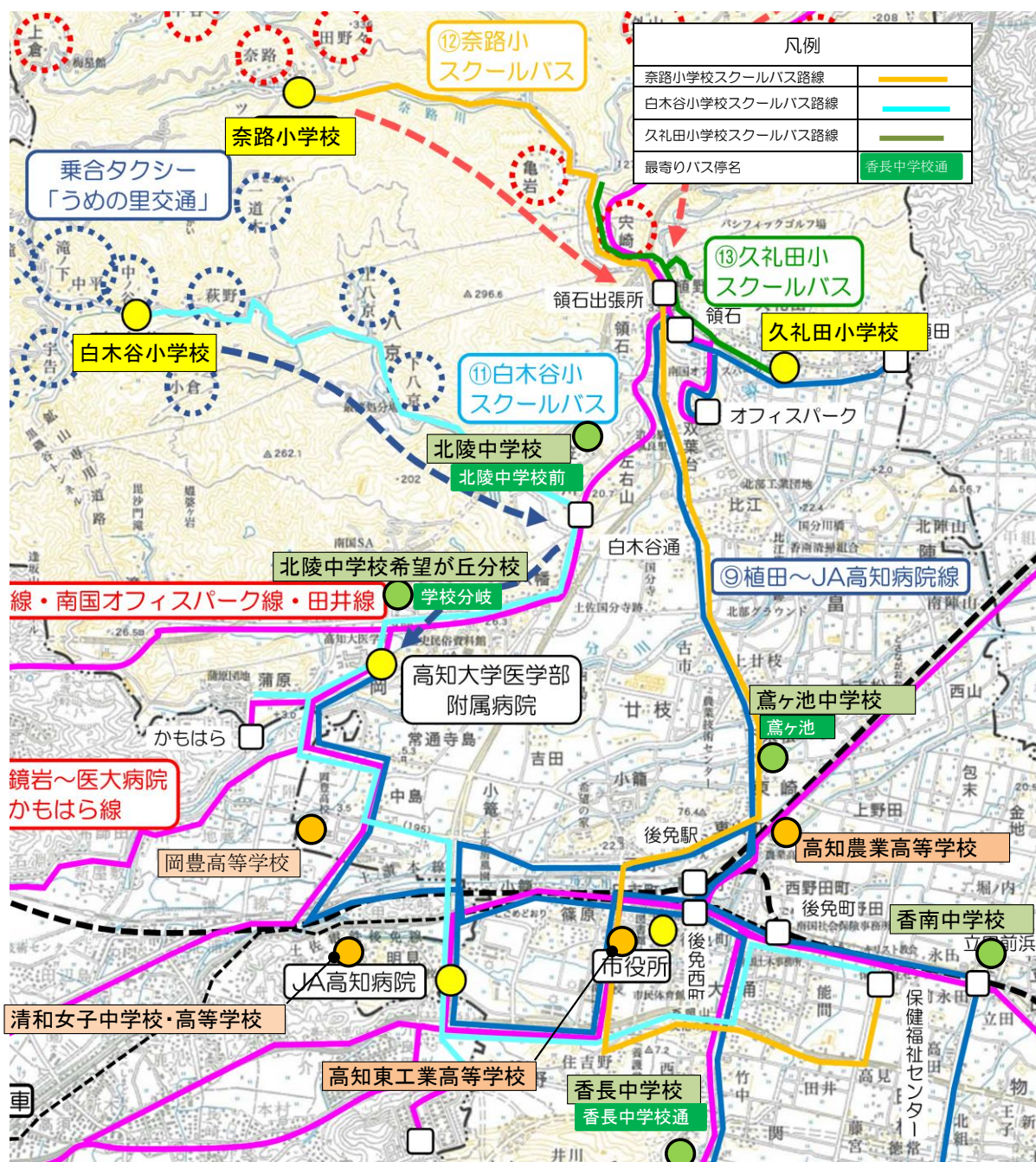
市内の小学校3校において、通学専用のスクールバスが運行されています。

路線バスと運行経路が重複する区間もありますが、特認校として校区外からの児童の通学する奈路小学校・白木谷小学校、校区が広範にわたる久礼田小学校それぞれにスクールバスを通学専用として運行することによって、児童の通学を保障しています。

また、朝夕の登下校時の運行以外にも学校や保育・幼稚園の行事などでバス車両が活用されています。

通学する児童の状況によって柔軟な走行経路の変更などが必要となる本市の小学校スクールバスの運行については、路線バス等の公共交通とは別に確保すべき移動手段として位置づけます。

▼小学校通学専用スクールバス運行ルート



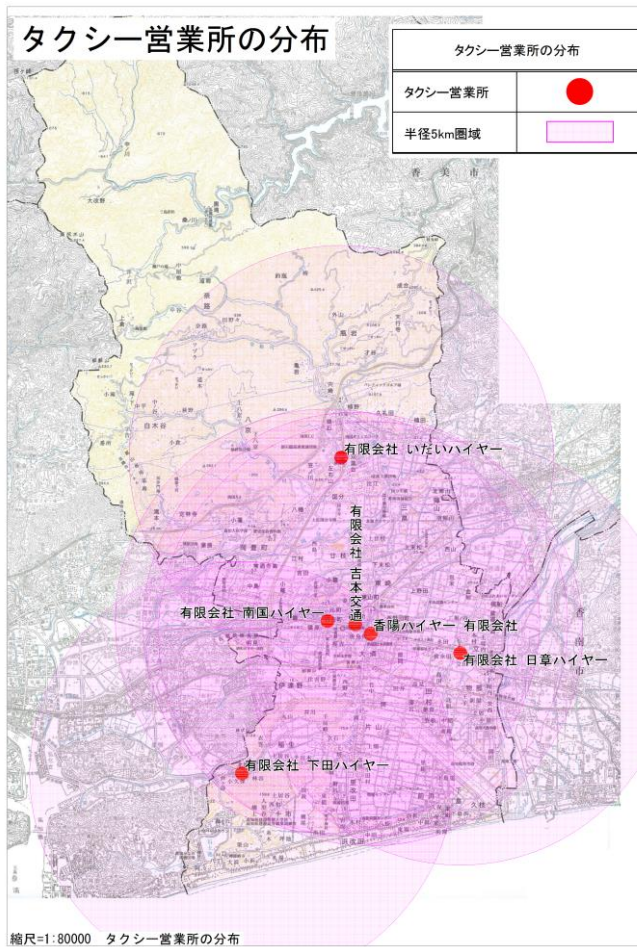
4 タクシー

市内には介護タクシーを除く6社のタクシー事業者があり、主に中心部の鉄道沿線付近に営業所を置いています。

タクシーは、「タクシー適正化・活性化法」において、地域公共交通であるとの位置付けがなされていますが、北部山間地域では、営業所を中心とした半径5km圏域に含まれない地区があります。

しかし、現在、デマンド型乗合タクシー（「せいらん」2路線、「うめの里交通」1路線）が北部山間地域全域（上倉地区・瓶岩地区）において運行されており、その利用者数は、増加傾向にあります。また、利用者が必要なときだけ運行することから、利用の少なくなったバス路線を代替するなど他地域においても導入を検討します。

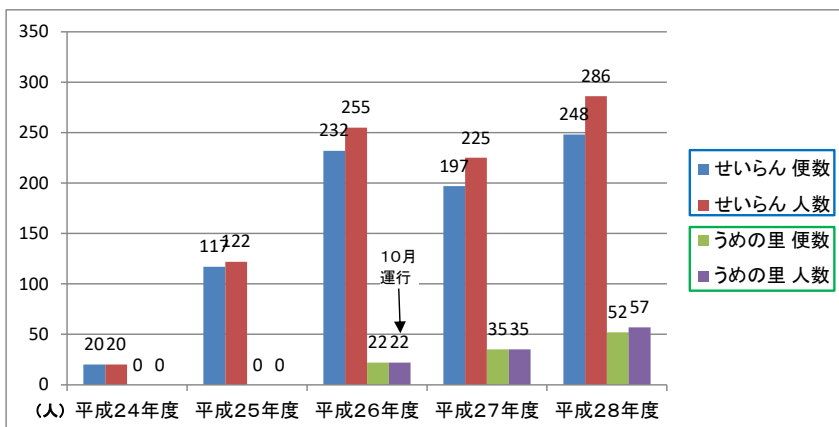
▼ タクシー営業所の分布図



市内立地タクシー会社

- ・有限会社吉本交通
- ・香陽ハイヤー有限会社
- ・有限会社くだいハイヤー
- ・有限会社南国ハイヤー
- ・有限会社下田ハイヤー
- ・有限会社日章ハイヤー

▼ 乗合タクシー実績（年度単位）



5 その他の交通手段

1) 南国市が実施している移動支援施策

(1) 在宅障がい者通院等支援サービス

本市では、身体の不自由な方等を対象とした通院等支援が行われています。

名称	内容
南国市福祉タクシー等事業	<p>在宅の障がい者を対象に、通院等のためにタクシーを利用する際の費用を助成するもの。</p> <p>【対象者】 身体障害者手帳（1級、2級）、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳（1級）等を有する者。</p> <p>【助成内容】 福祉タクシー券（12,000円／年）を交付</p> <p>【利用者数】 252人（平成28年度）</p> <p>【予算額】 2,490,800円（平成28年度）</p>

(2) 介護タクシーサービス

高齢者の自立と生活の質の向上を目的に、居宅から保健・福祉サービスを提供する場所や医療機関への送迎を支援しています。

名称	内容
介護予防事業（通院支援サービス事業）	<p>高齢者が要介護状態等になることを予防し、要介護状態等の軽減もしくは進行を防止することを目的とする。</p> <p>【対象者】 概ね60歳以上で、歩行が困難な者等で世帯内での通院支援ができない者。</p> <p>【助成内容】 タクシー券（3,000円／月）を交付</p> <p>【利用者数】 44名（平成28年度）</p> <p>【予算額】 1,005,000円（平成28年度）</p>

2) 民間による送迎サービス

(1) 病院の送迎バス

医療法人地塩会南国中央病院において、送迎が行われています。

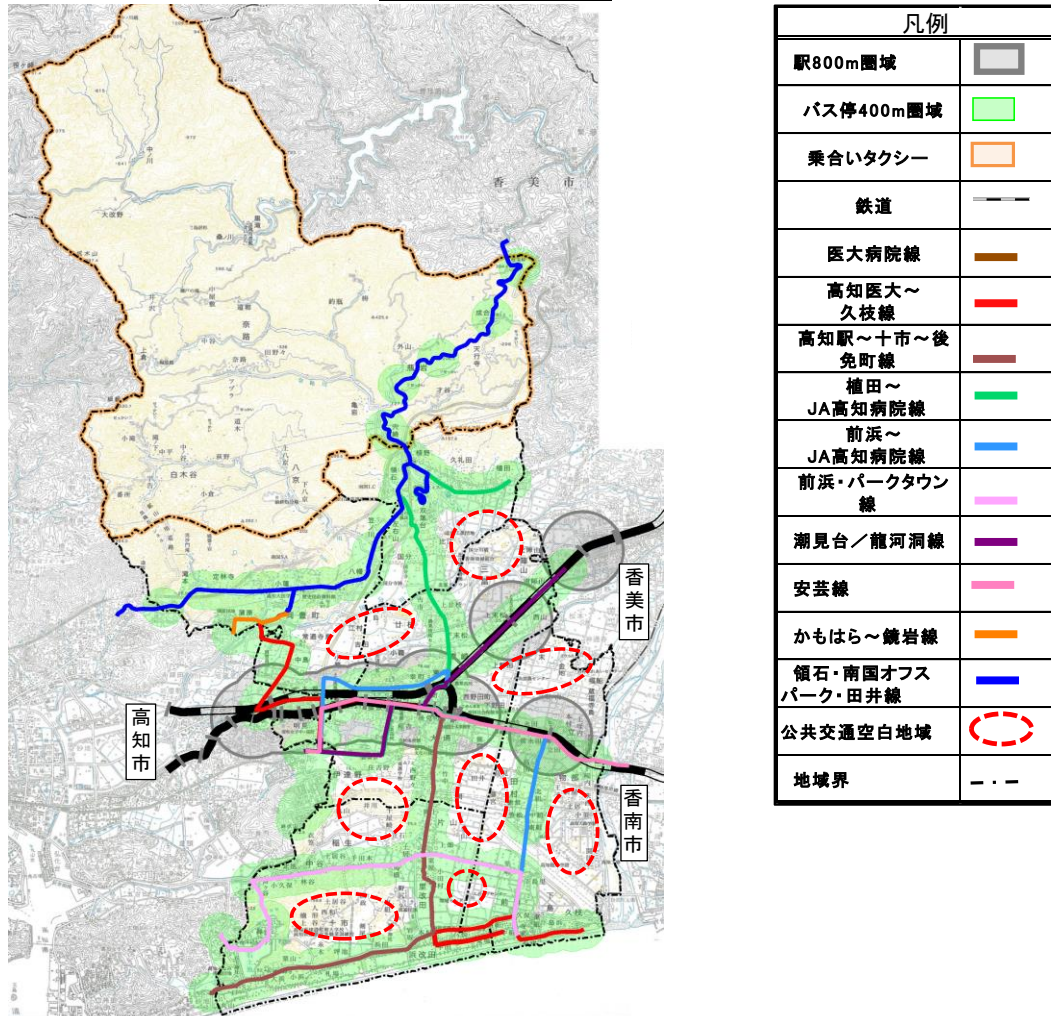
平成29年12月現在

番号	送迎方面	路線名	起終点	月		火		水		木		金		土		週運行
				行	帰	行	帰	行	帰	行	帰	行	帰	行	帰	
1	東方面	夜須線	夜須町役場前	7:30	11:00					7:30	11:00					2
3		特前浜線	赤岡町民会館前	13:30	15:30			13:30	15:30	13:30	15:30	13:30	15:30			4
2	南方面	十市線	境目バス停前	9:20	12:00					9:20	12:00					2
5		前浜線	赤岡町民会館前			9:30	12:00	9:30	12:00			9:30	12:00	9:30	12:00	4
4	北方面	久礼田線	一本松通りバス停前			8:00	11:00	8:00	11:00			8:00	11:00	8:00	11:00	4
12		特久礼田線	牧野公民館前	13:30	15:30			13:30	15:30	13:30	15:30	13:30	15:30			4
8	西方面	岡豊蒲原線	西岡酒店					8:00	11:00					8:00	11:00	2
11		介良線	JA介良支所前			9:23	12:00					9:23	12:00			2
6	北東方面	大柘線	福祉プラダ前	8:02	11:00					8:02	11:00					2
7		土佐山田線	土佐山田駅	9:30	12:00					9:30	12:00					2
9	北西方面	岡豊小蓮線	白木谷通バス停					9:35	12:00					9:35	12:00	2
10		奈路線	奈路公民館前			8:00	11:00					8:00	11:00			2

6 公共交通空白地

本計画における総人口に占める公共交通空白地域※1 人口の割合は、約 18%となっています。
地域別では、南東地域が 34%、南西地域が 25%と高くなっており、北部山間地域ではバス利用圏は約 84%となりますが、乗合タクシーが全域の公共交通を担っています。

▼公共交通空白地



地域名	人口 (人)	バス停 400m&駅 800m 圏外人口	バス停 400m & 駅 800m 圏域外人口割合 (公共交通空白地域人口割合)
北部山間	1,125	0	0%
北東	4,464	963	22%
北西	3,710	596	16%
中央	22,481	2648	12%
南西	9,820	2425	25%
南東	6,155	2099	34%
合計	47,755	8,731	18%

※乗合タクシー導入により利用圏域外人口はゼロとなる。

※1 公共交通空白地域の考え方について

本計画においては、鉄道駅については、一般的な徒歩圏である半径 800m、バス停は、誘致距離 300m と高齢者の一般的な徒歩圏である半径 500m を考慮し、400m を圏域の目安として設定している。
ただし、勾配や道路の線形・幅員等によっては、バス停 400m 圏域内であっても公共交通の不便な地域が存在することに留意する必要がある。